

記録的な暑さの中、震災復興における熱中症対策に、県・関係省庁・関係機関と連携して対応

これまで環境省が行ってきた熱中症対策に係る主な取組

【被災地域における全般的な熱中症対策】

- 被災地の薬局や道の駅、レンタカー営業所、空港リムジンバス等において熱中症予防のリーフレットを配布するとともに、九州全土のサービスエリアにおいてデジタルサイネージを活用した熱中症予防の普及啓発を実施

【避難所における熱中症対策】

- 避難生活中にトイレの使用を避けるため水分摂取を控えることがないよう周知広報を徹底するとともに、避難所に飲料水等の物資が十分に
行き渡るよう、医療関係者・県・関係府省庁と調整
- 避難者にリハビリを行う医療従事者等の団体に対して、避難所等巡回時に熱中症予防についても避難者へ啓発してもらうよう調整

【重中泊をされている方等に対する熱中症対策】

- 警察関係者の協力を得て、車中泊避難者への巡回時に、厚労省や県と連携して作成した「車中泊に関するセルフチェックリスト」等の情報提供を実施

【災害ボランティアの方等に対する熱中症対策】

- ボランティアの方々に対して、現地ボランティアセンターや災害ボランティアバス（ボランティアセンターと駅を結ぶバス）等における熱中症予防のためのリーフレットの配布や、また深部体温の変化を推定できるウェアラブル端末の配布を仲介し、活動時の熱中症予防の呼びかけを実施

熊本県や関係府省庁、関係機関等と連携して配布等を行っている周知広報資材

[illegible]

注意!

車中泊をされている皆様へ

車中泊をされている方は、以下の注意事項を御覧下さい。



※ 車中泊をされている方へ

① 車中泊の注意の事項

おむしや蚊、蜘蛛、蛇、壁紙、カビ、だるま、傷病虫咬等の発生、火災等の危険があります。特に注意の要する人は、風通し、冷暖房、火の元、身体部分の乾燥等の点に注意願ひ（119）をお願いします。

知れたい

- ① 車中泊に必ず、水分を補給する（のどが渇く前に飲む）
- ② 車中泊に必ず、寝る
- ③ 車中泊は雨や風通しの悪い場所を避ける
- ④ 車中はエアコンや暖房などで湿度を調整する
- ⑤ 風通しの悪い場所を避け、乾燥気味に衣類を着用する
- ⑥ 風通し確保のために定期的に換気をする



車中泊の注意事項

② エコノミークラス症候群の対策

長時間飛行する、車中泊等のエコノミー・クラス症候群を防止する可能性が有ります。下記にて自分に合った対策を行い、頭痛、肩こり、腰痛、失神等の発生、大気汚染の軽減に努めることとなります。

知れたい

- ① 長時間飛行、車中泊中等での長時間）寝ないでよいようにする。
- ② 定期的に立ち上がり、足や肩こりにストレッチをする。または歩行。
- ③ 脱水を防ぐために水を飲む。
- ④ 時々深呼吸をする。

**ホテル等への
相談ができます！**

お電話、お申し込み、お申し込みフォームのダウンロード等からお気軽にメールでお問い合わせください。



○ 予防のための足の運動



本紙掲載

[illegible]